

令和2年9月 SSH 活動記録

球陽高校SSH探究活動シンポジウム (2020.9.29.Tue.)

参加校

県立高校 11 校、市町村立中学校 2 校

参加人数

県関係者：2 名 教諭：27 名

本校のSSH事業として取り組んできた探究活動指導の総括やそのノウハウを県内の教職員と共有し、県内の探究学習を推進することを目的として、令和2年9月29日(火)に「球陽高校SSH探究活動シンポジウム」を開催しました。

今回のシンポジウムでは、本校SSH研究開発部より本校のSSH事業の概要説明と経緯を紹介し、琉球大学大学院教育学研究科教授の杉尾幸司氏をお招きし、教育講演『主体的対話的で深い学びを実現する探究活動の在り方～球陽高校における探究的な学習指導を通して～』を行いました。

また、今年度内容の変更を行った本校のSSH科目「SS理数探究I」の講座ローテーションの公開授業を行いました。「SS理数探究I」は自然科学の探究活動に必要な基本的で汎用的な知識や技能の習得を目指し、前半は4つの講座をローテ

ーションで受講する。1つ目は批判的な思考力の習得を目指した「クリティカルシンキング ラウンド」。2つ目は図表の描き方を学びデータを適切な図表で表現できるようになるための「データ表現 ラウンド」。3つ目はデータのパターンを発見し、データを組み合わせて考察する力を養う「データ解析 ラウンド」。4つ目は統計学の基礎を学ぶ「統計基礎 ラウンド」です。

各講座の公開授業後は、本校SSH研究開発部と参加者による意見交換会を行った。参加者からは、「(公開授業の内容に関して)学校の特性に合わせてアレンジして実施できそうだと感じました。」や「(探究的な活動が)自身の科目である数学に少し組み込める感じがしてきました。」などの意見もあり、本シンポジウムの開催目的である「ノウハウを共有する」を果たすことができたと考えます。

また、本シンポジウムを開催するにあたり、参加した各校の状況を把握することができた。探究的な学習を県内に広め、推進していくために沖縄県における本校の役割を再認識できました。



写真1：公開授業の様子



写真2：杉尾氏による教育講演会の様子